

平和行進活動交流ニュース

発行：原水爆禁止国民平和行進中央実行委員会事務局団体・日本原水協
電話：03-5842-6035 FAX：03-5842-6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com

2019年
6月21日
発行

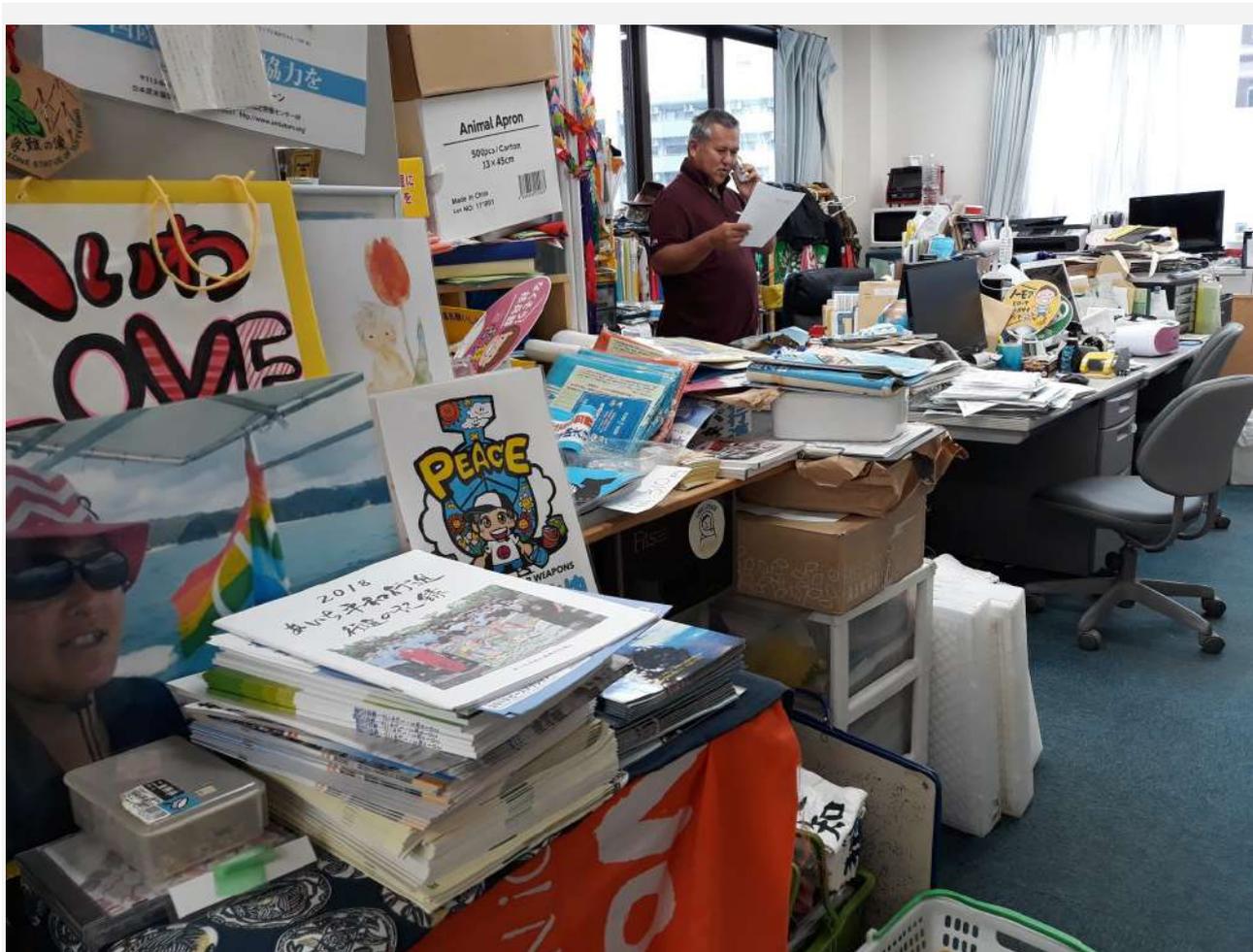
核兵器全面禁止・廃絶の声を広島・長崎・世界へ届けよう

5月31日から6月16日まで東京→広島コースの愛知・岐阜を行進した国際青年リレー行進者のガリレオ・カスティージョさん（フォーカス・オン・ザ・グローバル・サウス フィリピン）の日記を紹介します。

現場からの覚書#1：日の出と日の入り

2019年5月30日(木)／愛知県名古屋市

ガリレオ・デ・グスマン・カスティージョ



「平和の部屋」です。愛知県原水協の横江英樹(ルン)さんは、あいち平和行進の開始に備えて忙しく準備中です。

私は昨日、日の出前に常滑にある中部セントレア国際空港に到着しました。5月29日から6月18日にかけて愛知県と岐阜県を国際青年リレー行進者として平和行進に参加するよう、原水爆禁止日本協議会(原水協)から招待されたのです。愛知県原水協の横江英樹さん(ルンさん)は、平和行進について、そしてなぜ何千人もの人々が日本の平和運動に毎年参加するのかを話してくれました。ルンさんは、当初は愛知県知多市で社会福祉を学ぶ若い大学生だった1982年以来、平和運動を続けてきました。

私はルンさんから、平和行進は、広島と長崎で毎年開催される原水爆禁止世界大会に向けた活動であることを知りました。全体の目標は、核兵器のない平和な世界の達成を呼びかけ、そのために支援を訴えることであり、この平和行進は、1958年、僧侶である西本あつし氏が、広島から当時世界大会が開かれた東京まで歩いた第一回の平和行進以来続けられています。

その日の午後、ルンさんは私を、平和行進に参加する地元愛知のさまざまな日本の運動団体に紹介してくれました。私は、女性運動、医療専門職、年金者組合、そして労働組合の地元の指導者たちに会いました。私はまた、あいち平和行進の通し行進者たちの準備会議にも参加し、仲間の平和・核廃絶活動家たちからあたたかい歓迎を受けました。



年齢は「数字」に過ぎない。あいち平和行進者の多くは年配の(しかし心は青年の)人たちだ。

会話を交わすうちに、部屋の中の人々の大部分が年配の人であることに気が付きました。西岡さん(写真の一番右)は、東京から広島まで平和行進の全行程を踏破したベテランの行進者で、85歳の最年長者です。ルンさん(55歳)と私の年齢(27歳)を組み合わせても西岡さんの合計にもなりません！人生の大部分を平和運動に捧げてきた長年の活動家と一緒にいることは、身の引き締まる、そして感動的な経験でした。

原水協は、私が平和行進に国際青年リレー行進者として参加することは、被爆者を含む多くの参加者を奨励することになると考えて私を招待してくれました。でも考えてみれば、私はこのことはお互いにとって交流と理解を深め、支えあい、励ましあい、そして希望を与えあう大事な機会だと思います。社会のさまざまな場所に飛び込んでいく青年たちはほとんどの場合、エネルギーや熱意の源泉と見なされていますが、年配の人々、いわゆる「人生の黄昏時」の人々もまた、知恵、インスピレーション、そして勇気の源泉でもあるのです。



名古屋の空港に到着。写真提供:横江秀樹(ルン)

現場からの覚書#2: 連帯と共同

2019年5月31日—静岡県湖西市から愛知県豊橋市へ

写真: 桜丘高校の「永遠の平和の灯」前で、左からチャーリー・サンタ・マリア、ガリレオ・グスマン・カスティーリョ、小林さん。小林さんは、文字通りの平和行進者で、東京・広島コースの全行程 1800 キロを歩きます。この永遠の灯は、ある被爆者の方が、1945年に被爆した広島燃え残りから持ってきてくださったもの。



本日、陽がすっかり高くなったお昼ごろ、平和行進は静岡県から愛知県に引き継がれました。この引き継ぎから、愛知県の平和行進が始まります。静岡での平和行進

の参加者が湖西市の西部地域センターに到着すると、愛知のさまざまな市民団体のみなさんが出迎えてくれました。静岡県の行進参加者と出会い、そして光栄にも、ここから愛知平和行進が終わる6月11日まで「平和行進」(peace march)をつないで岐阜県へと引き継ぐことになるのは、夢をみているような気持ちでした。チャーリー・サンタ・マリアさんを紹介されました。彼女は、同じフィリピンのNGO職員で、静岡を歩いた国際青年リレー行進者。私とマリアさんどちらにとっても「日が昇る国」(日本)に来るのは初めてのことです。



平和の連帯

左上から時計回りで、「静岡県の行進が湖西市に到着」「引継ぎ式」「日本の文化活動家の方々が連帯の歌を演奏」「国際青年リレー行進者のチャーリー・サンタ・マリア(白いバンダナをしている)」。

引継ぎ式で、チャーリーさんが、「世界の国々に軍隊があるけれども、自分たち(平和活動家)もまた兵士であり、それは、『平和の兵士であり、自分たちの兵器は愛である』とあいさつしました。また、被爆者の方々から、直接、いろいろな話や体験をお聴きする機会を得ました。その方は、沢田昭二さん、87歳で、元物理学の教授です。13歳のときに広島の実家が破壊されました。第2次世界大戦中のことで、自宅は爆心地から1.4km。まだ少年でしたが、自分のお母さんが原爆で殺されるのを目撃したのです。

きょうの最終目的地である桜丘高校へと行進し始めるなか、昭二さんに、片言の日本語で質問しました。昭二さんにとって「平和」とは何でしょうか。昭二さんはこう答えました。「平和とは、すべての核兵器を廃棄すること、平和とはいかなる軍事的組織も持たない世界のこと、平和とは未来にとって、私たちのこどもにとって幸福な世界のことです」。



新たな出発。

左上と右上「愛知平和行進がスタート」; 左下「被爆者の田村さんに出会う平和行進の参加者、豊橋市二川宿本陣資料館で」; 右下「おばあさんが平和行進の署名に協力。ポンと5千円(USドルで46ドル)を平和行進に寄付してくれました」

日が暮れるころ、3万歩(25km)を超え、ようやく桜丘高校に到着しました。ここに、広島の「永遠の平和の灯」(冒頭の写真説明を参照)が置かれています。13日間にわたる愛知平和行進の初日のしめくくりとして、平和を愛する人々と運動が揺るがず協力しあい、堅く連帯することを願い、そして誓いあいました。



連帯は永遠に 左上と右上「生協の労働者が連帯を表明し、軽食を提供。おかげで行進参加者はリフレッシュ」; 左下「桜丘高校の生徒たち。太鼓を鳴らし、笛の演奏で愛知と静岡の行進者を出迎えてくれた」; 右下「アーティストで活動家のAG・サニヨさんと日本の子どもが描いたキャンバス・アートといっしょに。」



平和の共同: 日本生活協同組合連合会は、1951年3月に発足(ママ)。前身は、日本協同組合同盟。平和行進には毎年、参加。平和行進に連帯して参加してくる団体は、日本ではほとんどが労働組合だ。

(翻訳協力: 泉 利和)